

平成 23 年度 日本地震学会海外渡航旅費助成金成果報告書

金沢大学大学院 自然科学研究科 地球環境学専攻 2 年 石田亮介

私はこの度日本地震学会の助成を受け、2011 年 12 月 5 日から 9 日までの 5 日間にサンフランシスコの Moscone Center で開催された AGU Fall Meeting 2011 に参加し研究発表を行ってきましたのでその成果を報告いたします。

初めての海外ということもあり不安が期待よりも少し勝った気持ちの中、2 日目の午後に行われたポスター発表に参加しました。会場の広さと扱っている分野の多様性に圧倒されながらも、私は Monitoring of slip at the transition zone on the plate interface estimated from non-volcanic deep low-frequency tremors in southwestern Japan というタイトルでポスター発表を行いました。スロースリップイベント(SSE)と時空間的に同期する低周波微動を用いて西南日本のプレート境界遷移領域における SSE の平均すべり速度とすべり分布を推定するという内容の発表でしたが、特に平均すべり速度の内容について質問が多かったように感じました。平均すべり速度の方向を一定に仮定しているのはどうなのかといった質問が印象的で、今後の研究課題として大変貴重なアドバイスを頂くことができました。最初は練習したように発表が行えず、このままで大丈夫なのかといった不安がありましたが、相手の方々が私の拙い英語を熱心に理解しようと努めてくださったこともあり、回数を重ねるごとに相手の反応を伺いながら状況に応じてコンパクトにまとめて話すこともできるようになっていきました。また、韓国の方は SSE に大変興味をもっておられ発生間隔や検出手法などの基礎的な知識も聞いてこられたので、専門外の方からも興味を持っていただける自分の研究に自信を持つこともできました。15 時 30 分頃から会場内でのビールの提供が始まったことに戸惑いながらも、その後さらに人の流れが活発になり議論も一層白熱していく中で大勢の人と研究を通じてコミュニケーションすることができました。

また、口頭発表を聞くなかで The Static Versus Dynamic Earthquake Triggering Debate: What's New and What's Next? というセッションでは東北地方太平洋沖地震の研究発表が盛んに行われていました。大勢の人がその発表を聞いており、発表者の方が東北地方太平洋沖地震は巨大地震を理解するうえで大変貴重なイベントであると話していたのが印象的で、世界の関心の高さを実感し改めて東北地方太平洋沖地震の科学的な意義について考えさせられました。私の研究とも深く関係のある低周波微動や SSE といった内容も聴衆の強い関心を引いていました。また、ジェスチャーを織り交ぜながら聴衆に語りかけるような発表は日本ではあまり見られないものだったので今後の発表の参考にしたいと思います。

最後になりましたが、日本地震学会による海外渡航旅費助成金によって海外で研究発表を行い今後の糧となる大変貴重な経験を積むことができました。このような機会を与えて下さった日本地震学会と関係者の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。